令和元年度

よりん彩

活動支援事業

公立鳥取環境大学環境学部甲田研究室

女性活躍推進プロジェクト

【メンバー】
奥村芙美子（環境学部３年、リーダー、主にアンケート、インタビュー、図を担当）
川上士雄（環境学部３年、副リーダー、主にインタビュー、第３章を担当）
オスティナ・ワイブシ（環境学部３年、主にインタビュー、図、第１章を担当）
下村つぐみ（環境学部３年、主にアンケートを担当）
酒井聖輝（環境学部３年、主にインタビューを担当）
宮原涼（環境学部３年、主に第３章を担当）
森健（環境学部３年、主に第２章を担当）
岩佐知明（環境学部３年、主に第２章を担当）
※アンケート項目、第４章は全員

【プロジェクト・アドバイザー】
環境学部　講師　甲田紫乃

令和２年３月

目次

1. 調査の背景 3
2. 大学生の男女の意識の差～公立鳥取環境大学の学生へのアンケート調査より～ 4
2.1 調査概要 4
2.2 調査結果 4
2.3 アンケート結果の考察 10
3. 鳥取県で活躍している女性へのインタビュー 11
3.1　ハンター民宿 BA-BAR 11
3.2　インタビュー 11
3.3　考察 13
4. おわりに 13
5. 参考文献 14
6. 資料 15

1. 調査の背景

昨今、SDGｓが声高に叫ばれるようになって久しい。持続可能な開発目標、「SDGｓ」とは、2015年9月に国連の持続可能な開発サミットで定められた国際社会の共通目標である。17の目標と169のターゲットで構成されている。17の開発目標の中で、特に目標５は、「ジェンダー平等を実現しよう」となっており、ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図ることを目的としている。

社会の持続可能性確保のため、結婚や出産、育児と就業との両立支援が少子化対策には必要であるという視点からも、女性の活躍は重要であると考えられる。女性が育児と就業との選択を迫られずに活躍できる社会を実現するとともに、出生率の改善を目指すことは、日本社会の持続可能性を確保することにつながる（加藤編,2016）と言われている。

このような中、「女性活躍」という言葉は2015年の「女性活躍推進法」をきっかけに人々にとって身近なものになってきたが、その言葉の意味するところは、多様であり、女性の中には、「女性活躍」を重圧と捉えるものもいる（奥田，2018)。

これは女性と男性の「女性活躍」に関わる意識に差があるからではないか、と考えたのが本調査の背景である。

以上を踏まえ、女性も男性もともに生き生きと活躍できる社会に向け、本調査では、公立鳥取環境大学の学生へのアンケート調査及び鳥取県東部地域の河原町で活躍している女性へのインタビュー調査を実施した。

2. 大学生の男女の意識の差～公立鳥取環境大学の学生へのアンケート調査より～

2.1 調査概要

調査対象：　公立鳥取環境大学の「環境政策論」を受講の学生 113 名
調査実施日：2020 年 1 月 20 日(月) 4 限
回収数：　113
有効回答数：113

アンケートの質問項目は女性活躍や女性の雇用に関連する項目と各個人の特性についての項目を、プロジェクト・メンバーがそれぞれ出し合い、その中から 23 項目の質問を選んで作成した。回答者の属性についての項目は、学部、学年、性別、出身地の他に「あなたは長女／長男ですか？　(はい　・　いいえ　・　答えたくない)」も設けた。これは、日本においては長女であること／長男であることは、末子などと比較して、育てられ方に違いが出てくると考えたためである。

2.2 調査結果

回答者の属性は以下のようになった。
女性 41 名　　男性 72 名
環境学部 78 名　経営学部 25 名　不明 10 名
学年　2 年 66 名　3 年 36 名 4 年以上 1 名　不明 10 名
長子 64 名

23 項目の中から、特に男女差が出た項目は以下である。
※図の q1 などは質問項目の番号を表す。すべての質問項目と回答割合は資料に掲載。

[キャリアアップしたいと考えている]

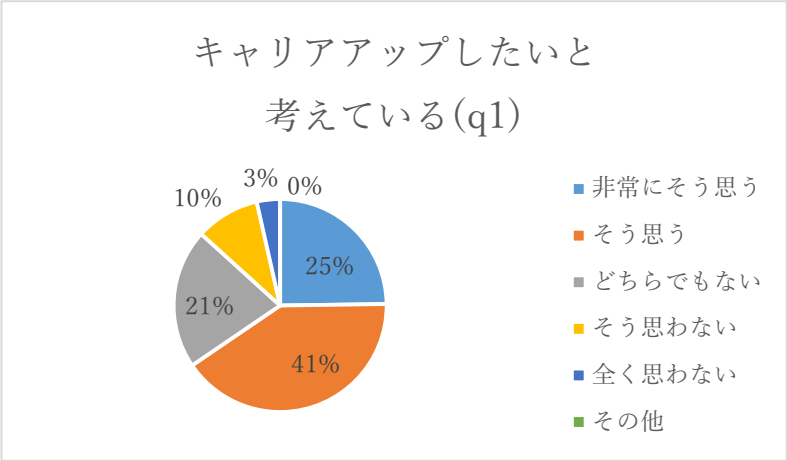


図 1　キャリアアップしたいかという質問に対しての回答割合

図１は男女合わせた全体の結果を表している。キャリアップをしたいと思う学生は「非常にそう思う」「そう思う」の 66%であった。性別ごとでの割合は女性（図２）、男性（図３）で以下のような結果を得た。

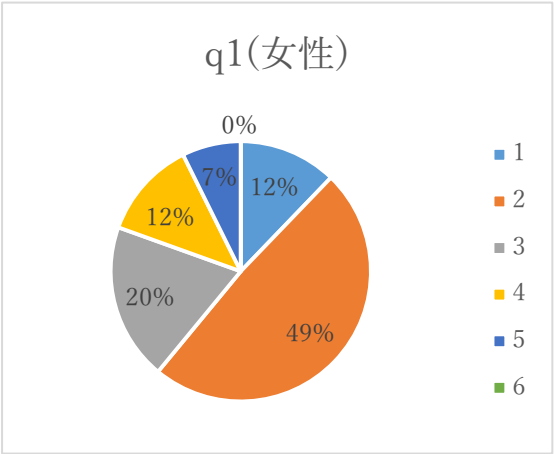


図 2　キャリアアップしたいという
女性の回答別割合

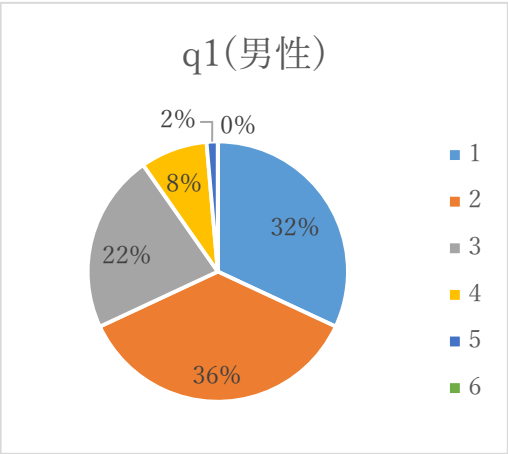


図 3　キャリアアップしたいという
男性の回答別割合

「キャリアアップをしたい（非常にそう思う、そう思う）」と思う男性が 68%、女性は 61%であったが、その内訳をみると、「非常にそう思う」は男性が 32%に対して、女性が 12%と大きな差があった。図 2、図 3 より、男性の方が女性よりもキャリアアップしたいという思いが強く、女性はキャリアアップしたいという気持ちが男性よりも弱いということが分かった。

[現在の生活に満足しているか]

図４は現在の生活に満足しているかというと質問項目に対しての回答割合であり、44%が満足していることが分かった。

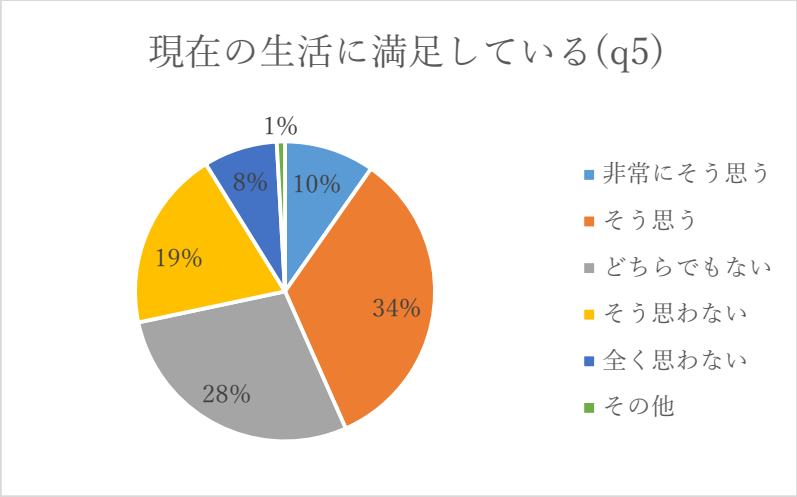


図 4　現在の生活に満足しているかという質問に対しての
回答割合

男女別の回答割合を表したものが図５（女性）と図６（男性）である。「非常にそう思う」「そう思う」合わせると、現在の生活に満足している女性が 34%であるのに対し、男性は 49%であった。この結果から、女性の方が現在の生活に満足していないことがわかった。

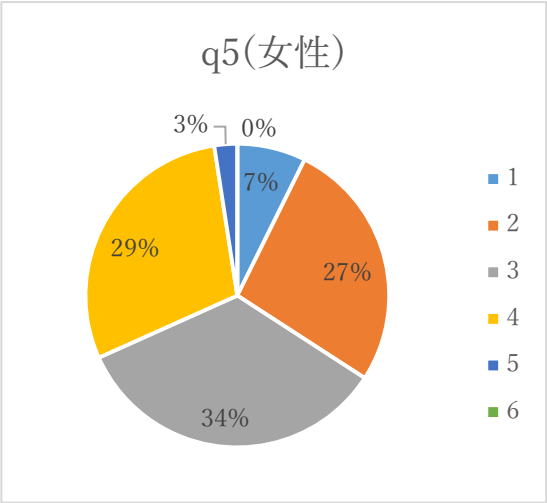


図　5　現在の生活に満足しているかという質問に対しての女性の回答割合

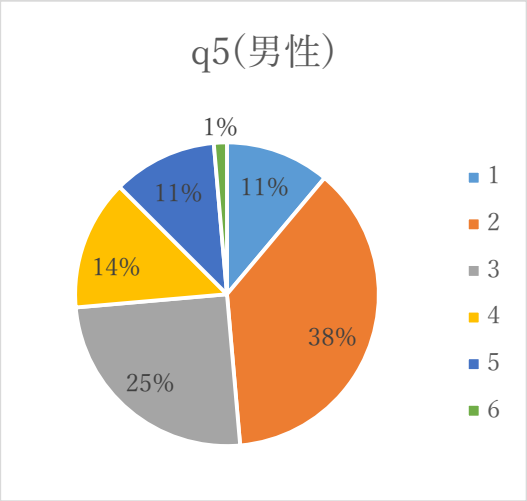


図　6　現在の生活に満足しているかという質問に対しての男性の回答割合

[社会で活躍したいと思っている]

社会で活躍したいと思っているかという質問に対しては、「非常にそう思う」「そう思う」合わせて、58%であった(図７)。

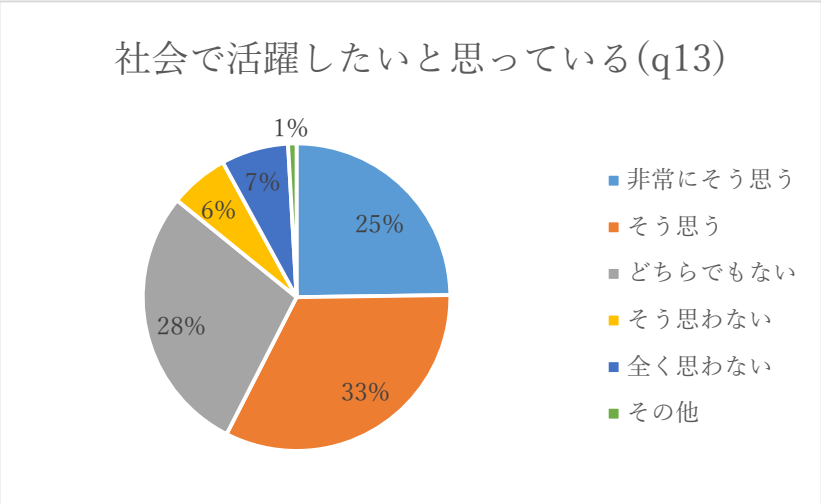


図　7　社会で活躍したいと思っている質問に対しての回答割合

男女別の回答割合において、「非常にそう思う」と答えた女性（図８）が 15%であるのに対し、男性は 31%であった（図９）。

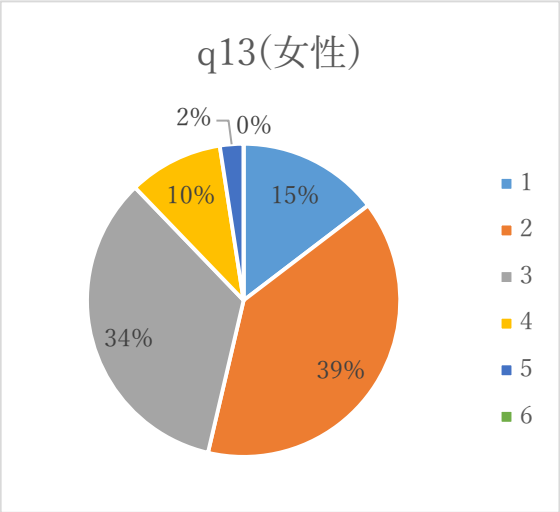


図 8　社会で活躍したいかという質問に対しての女性の回答割合

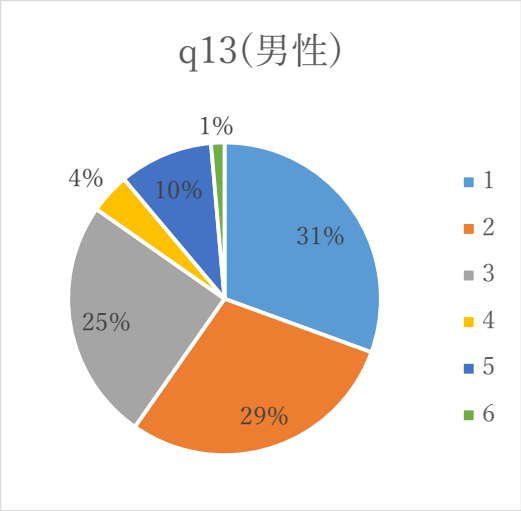


図 9　社会で活躍したいかという質問に対して男性の回答割合

[職場は女性もしくは男性だけの環境の方が居心地はいいと思う]

職場は女性もしくは男性だけの環境の方が居心地はいいと思うかという質問に対しての回答割合は以下のようになった(図 10)。「非常にそう思う」「そう思う」合わせて 13%であった。

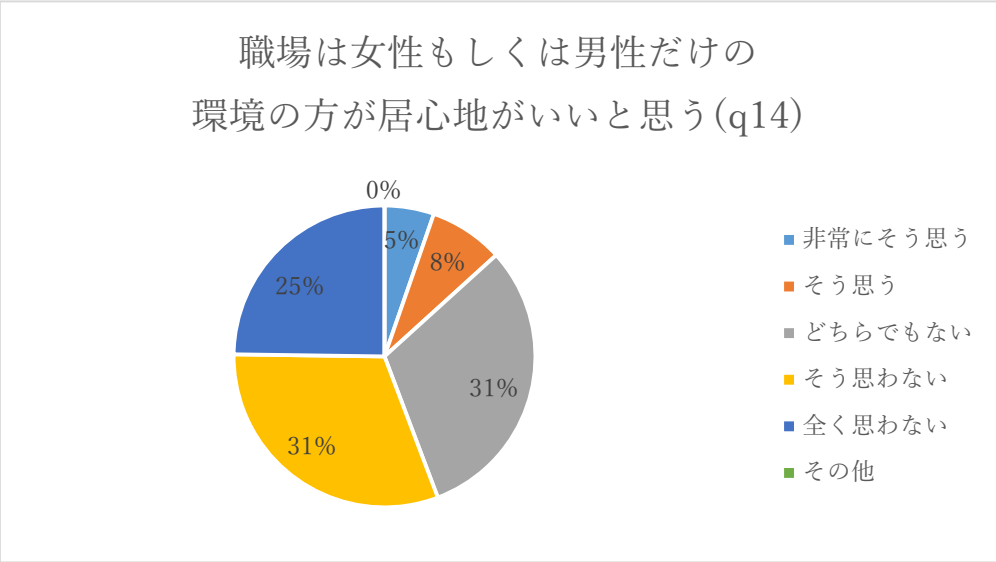


図 10　職場は女性もしくは男性だけの環境の方が居心地はいいと思うかという質問に対しての回答割合

男女別で見てみると、「非常にそう思う」「そう思う」合わせると、女性が 17%、男性は 11%であり、「非常にそう思う」のみだと、女性が 10%、男性が 3%であった。女性は図 11、男性は図 12 で示されている。

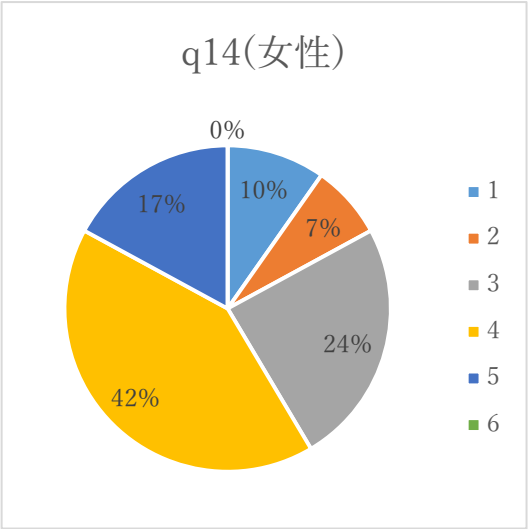


図 11　職場は女性もしくは男性だけの環境の方が居心地はいいと思うかという質問に対しての女性の回答割合

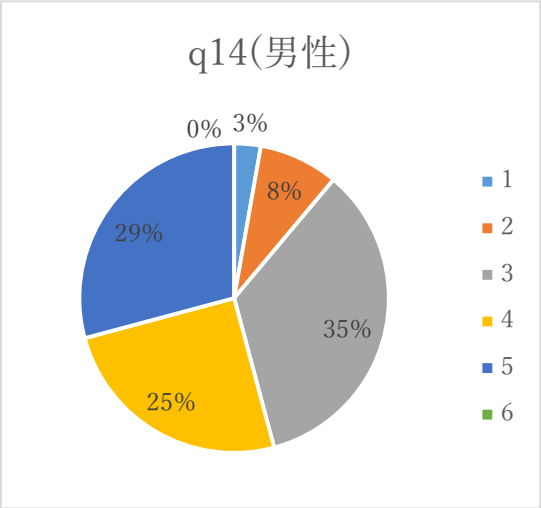


図 12　職場は女性もしくは男性だけの環境の方が居心地はいいと思うかという質問に対しての男性の回答割合

[女性が就職するのに苦労する業界があると思う]

図 13 は、女性が就職するのに苦労する業界があると思うかという質問に対しての回答割合を示しており、「非常にそう思う」「そう思う」合わせると 87%に達していた。また、「非常にそう思う」のみでも 52%と半数を超えていた。

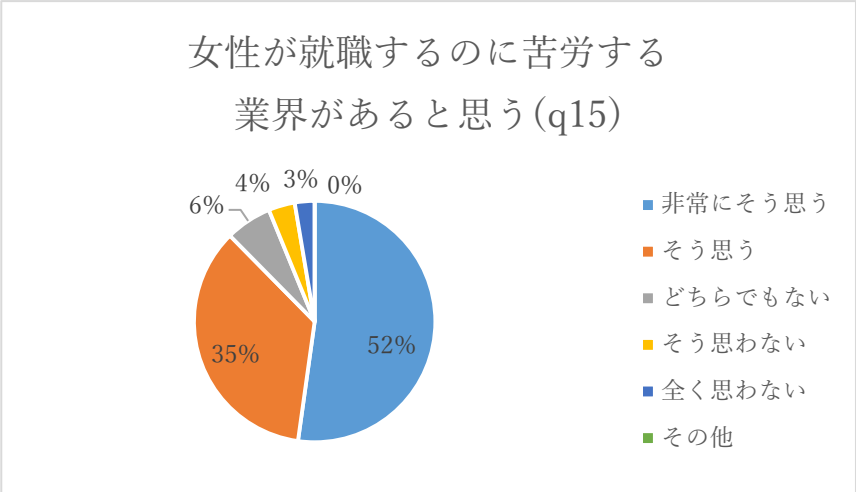


図 13　女性が就職するのに苦労する業界があると思うかという質問に対しての回答割合

男女別の回答割合を見ると、男女でその内訳が大きく異なっていた。女性（図 14）の 61%が「非常にそう思う」と回答したのに対し、男性（図 15）は 47%にとどまっていた。

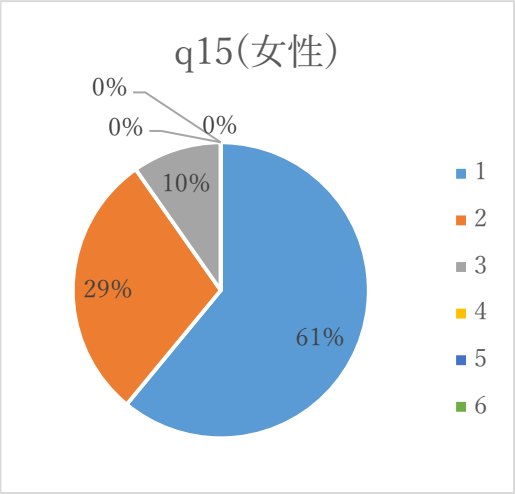


図 14　女性が就職するのに苦労する業界があると思うかという質問に対しての女性の回答割合

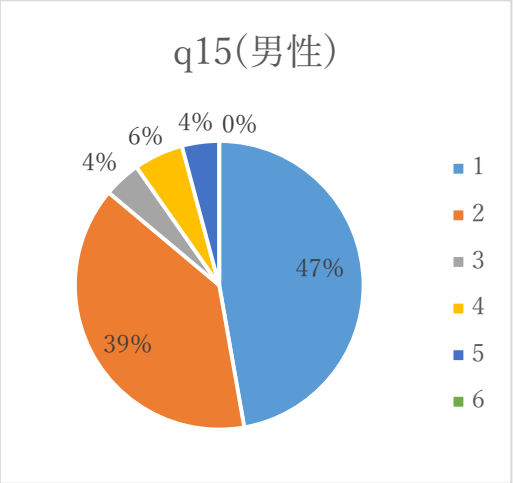


図 15　女性が就職するのに苦労する業界があると思うかという質問に対しての男性の回答割合

[現在の日本では女性が活躍していると思う]

図 16 は、現在の日本では女性が活躍していると思うかという質問に対しての回答割合を示している。「非常にそう思う」「そう思う」合わせると、42%であった。

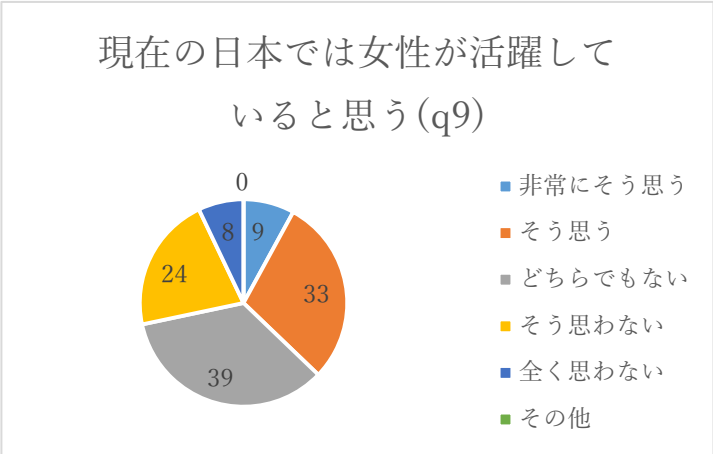


図 16 現在の日本では女性が活躍していると思うかという質問に対しての回答割合

男女別で見ると、その内訳は大きく異なっていることが分かった。「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると、女性（図 17）がわずか 32%であったのに対し、男性(図 18)は 86%にも達していた。さらに「非常にそう思う」のみに焦点を当てると、女性がわずか 7%である一方、男性は 47%にも達していた。

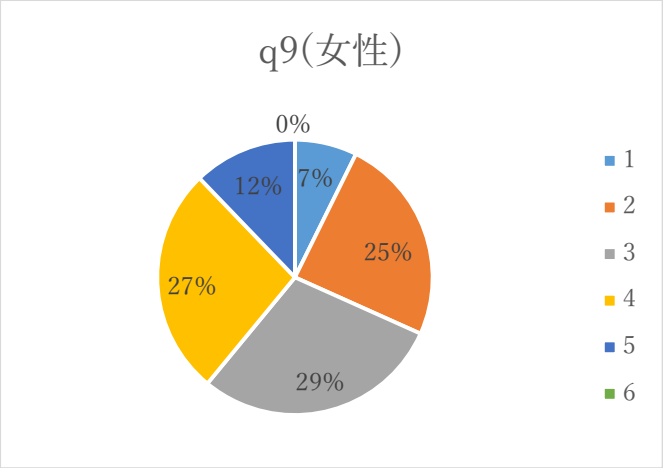


図 17 現在の日本では女性が活躍していると思うかという質問に対しての女性の回答割合

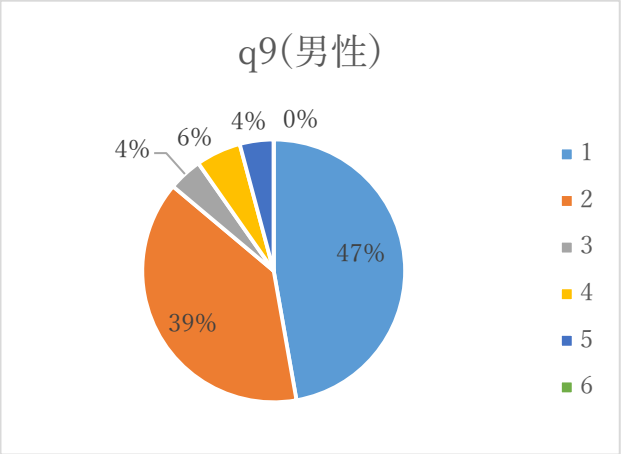


図 18 現在の日本では女性が活躍していると思うかという質問に対しての男性の回答割合

2.3 アンケート結果の考察

2-2 で明らかになった傾向を踏まえると、男性は、女性が考える以上に、現在の日本の女性活躍や女性の就労について、肯定的な印象を持っていると考えられる。「現在の日本では女性が活躍していると思う」という質問項目における男女別の回答内訳の大きな差は、女性の「今よりももっと活躍したい」という向上心や「現在の生活をもっと良くしていきたい」という意欲が、男性に「(すでに）活躍している」ような印象を与えていることが起因の一つではないかと考えられる。

男性と女性の仕事に対する何らかの価値観の相違も要因として考えられる。たとえば、男性は女性に対して、ある程度のレベルの仕事をしてもらえれば助かると思っているが女性はそれ以上のことがやりたい。男性が女性よりそもそも仕事を行うことについて上の立場だと考えている人が多いから（社長や会長もほぼ男性である)、女性の仕事ぶりが些細なことでも活躍していると考えてしまう。しかし女性はそれ以上のことをやりたいから活躍に満足していない。このような価値観の相違が「現在の日本では女性が活躍していると思う」という質問項目に対する回答内訳の大きな男女差に起因していると考えられる。そして、このような差が、女性の社会進出の壁の要因にもなっていると推察される。

3. 鳥取県で活躍している女性へのインタビュー

3.1　ハンター民宿 BA-BAR

ハンター民宿 BA-BAR は、鳥取県の東部、河原町の弓河内地区に存在する狩猟体験のできる民宿である。九州出身で、鳥取初女性ハンターの上田知子氏が経営する、イノシシやシカなどのジビエ料理作りなども楽しめるハンター体験民泊である。地域で獲れた獣肉を活用することで、憩いの場「場・ＢＡＲ」を目指しており、狩猟、ジビエ料理、民宿を通じて地域に貢献している。

このハンター民宿 BA-BAR はもともと空き家だった建物であり、田舎の一軒家といった趣のあるアットホームな民宿である。ハンター民宿 BA-BAR を経営している女将の上田氏は、狩猟免許を持っており、狩猟に関心のある宿泊客へ狩猟体験やジビエ料理の体験を提供している。

3.2　インタビュー

写真 1 インタビューの様子

写真 2 インタビューの様子

写真 3　ハンター民宿 BA-BAR 前にて

ハンター民宿 BA-BAR の上田知子氏へのインタビューは 2020 年 3 月 9 日に実施した。インタビューはアットホームな雰囲気の中、ハンター民宿 BA-BAR の 1 階の部屋で行われた。ここは宿泊者たちが集う部屋でもあり、女性に関する本から狩猟に関する本など、様々な本も読むことができるようになっている。

以下、インタビュー内容の概要である。

①ハンターとして

鳥取県はハンターとしてやりやすい環境である。しかし、女性１人では厳しい。この民宿は空き家を活用しており、おいしいジビエ料理もふるまうという、アットホームな雰囲気とワイルドな体験ができる空間である。空き家は借りる際に厳しい審査があるが、時期的にも人脈的にも恵まれ、無事借りることができ、この民宿を立ち上げることができた。民宿の影響もあり、移住者は増えてきており、若者も増えているという地域貢献にもつながっている。ハンターのグループも結成しており、現在男性２人との計３人でハンターチームとして活動している。女性が所属しているハンターチームという事もあり、他のハンターチームにも影響を与えている。そのため、地域ぐるみで、１人～７人でハンター交流も行っている。同じハンターでも農業をやって、民宿もやって、狩猟もやられている方もいるということを交流で知った。

②女性ハンターとして地域活性化に関わることについて

鳥取県は、ハンターとしての環境が良い点から、ハンターが多くなっている。中山間地域という事もあり、2010 年に鳥取に移住した。空き家は多くあるものの気軽に住めるわけではなく、多くの厳しい審査が必要である。

河原町では、もともと、女性が経営している「えばこ GOHAN」というカフェが人気を博しており、県外からも多くの方が来ていて、移住者や若者を集めている。このように人が集まる環境づくりを行いたいという思いで、ハンター民宿 BA-BAR を始めた。ハンターチームで狩猟した肉を民宿で提供したり、お客様と一緒に料理をしたりしている。きっかけは村の行事である。これは、地域の交流行事で自身にとって良い変化をもたらした。「新しいことをポジティブに今のものを活用していこう！」という考えが生まれ、それから、イベント支援やジビエ、ジビエ肉の発信、女性だからやりにくいことなどについて発信した。そのおかげもあり、１回のイベントで７、８人の他県の方に来ていただいた。兵庫県や広島県から来られる方が多かったが、鹿児島からも来ていただいた。また、サラリーマンの方や、元自衛隊の方、保険会社の方、別の民宿をやられている方にも来ていただいた。「猟師宿」という狩猟チームに入り、女性だからこそのブランク（育児など）はあるものの、省エネでも頑張ることができる。両親からはハンターになるという事で反対はされなかった。また、メディアでも扱われるようになり、メディアも収入源として利用してきた。

害獣駆除は、害獣を捕えたら奨励金が出るため副業としてはおすすめである。子どもを産むと体がしんどくなるため、女性活躍については、その人その人にあった活躍の形があると感じている。ハンターとしての収入は謝礼金であり、さばいた肉の販売はほとんどしていない。ハンターをすることで謝礼金が入るため、副業としておすすめである。また、肉をさばいて売れたり、御裾分けしたり、地域の人のつながりを大切にしている。人と関わるから成り立つお仕事である。

3.3　考察

インタビューを通して、関心のあることを追求していく中で、人々との信頼関係が築き上げられ、様々なつながりにつながっていくということが、ひいては「活躍」につながっていくのではないかと考えられる。

上田氏の場合は、「狩猟」という関心のあること／特技を活かし、「害獣駆除」による「地域への貢献」、そして、「ハンター民宿」の経営によって、日本中から狩猟やジビエ料理に関心のある人々を河原町へ招き入れる「地域活性化への貢献」を行っていく中で、活躍している。上田氏のインタビューの中では再三、「女性だから」云々というわけではなく、好きで様々なことに取り組んでいるうちに、今のような形になっていった、という内容が聞かれた。子育てもする中で、様々な活動を両立していく生活においては、各々の状況にふさわしいことに取り組む、という状況が重要であり、そのような状況を可能にする環境の構築が不可欠である。

4. おわりに

アンケート調査およびインタビューの内容を総合すると、女性、男性が、ともにいきいきと活躍できる社会のためには、まず「女性活躍」の様々なあり方を広く提示する必要があると考えられる。しかし、その提示の形は、女性にとって「こんなすごい人だから女性でもこれだけ活躍できているんだ（だから私には無理だ)」、男性にとって「こんな女性が活躍しているんだ（日本では女性が大活躍しているな)」という印象（特別感）をもたせるようなものは好ましくない。一人の人間のライフストーリーとして、提示する形が重要ではなかろうか。

そのためにも、男女の意識差の要因を明らかにし、様々な事柄に対して（制度なども含む)、現状を正確に把握した上で、一人の人間としてどのようなライフスタイルがあるのか、そしてそのためにはどのようなプロジェクトや制度などがあったら良いのか、といった点を議論できるような場が必要である。

本プロジェクトの今後として、上記のような場をワークショップなどの形で実践していこうと考えている。

5. 参考文献

奥田祥子(2018).『「女性活躍」に翻弄される人びと』 光文社新書.

外務省ホームページ.『SDGs とは?』
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html (2020 年 2 月 11 日データアクセス)

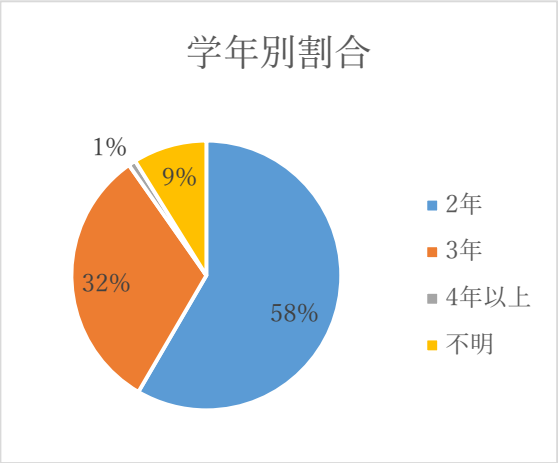
加藤久和(2016).「求められる女性活躍とその課題」加藤久和・財務省財務総合政策研究所編『女性が活躍する社会の実現　多様性を活かした日本へ』　中央経済社.

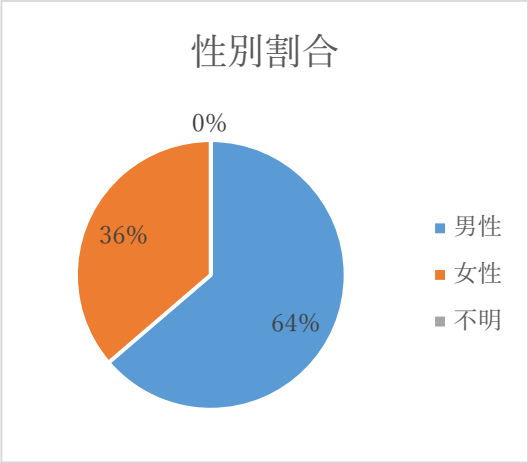
金谷千慧子(2011).『「働くこととジェンダー」―ビジネスの変容とキャリアの創造』 明石書店.

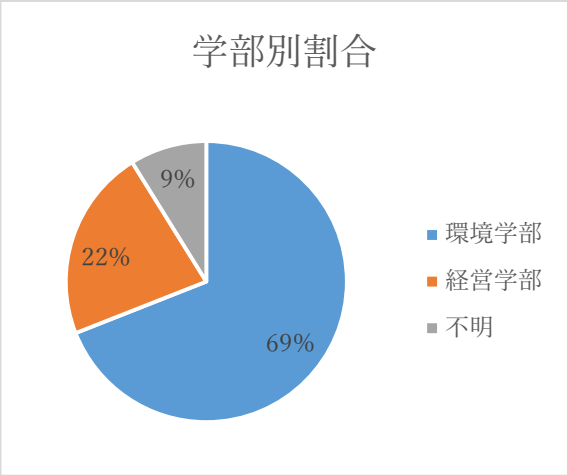
鳥取県(2006).『とっとりの女性史　戦後からの歩み』鳥取県.

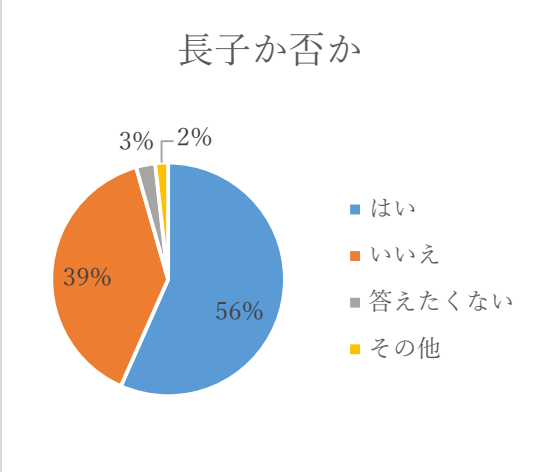
6. 資料

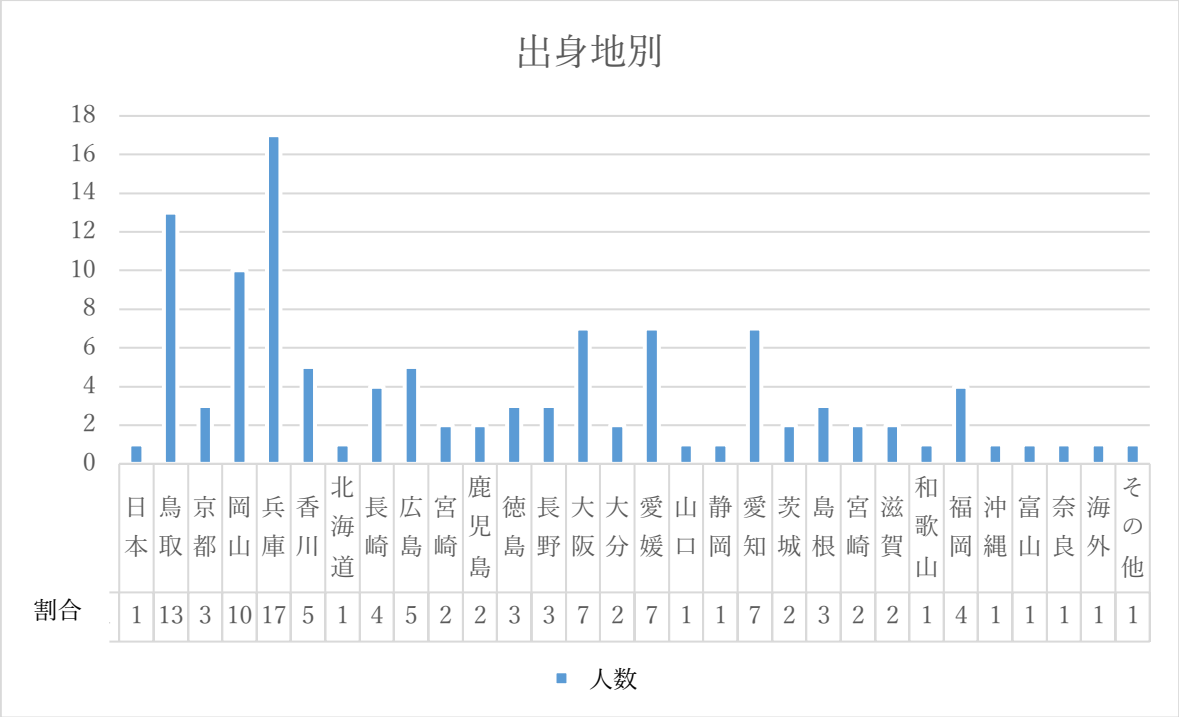
【資料 1】<u>回答者の属性</u>







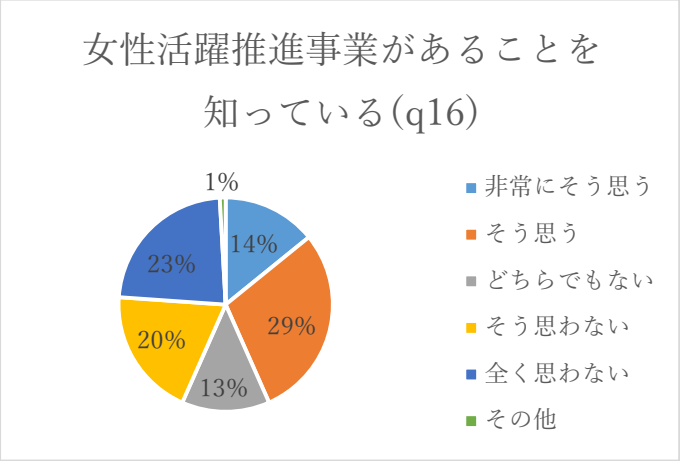


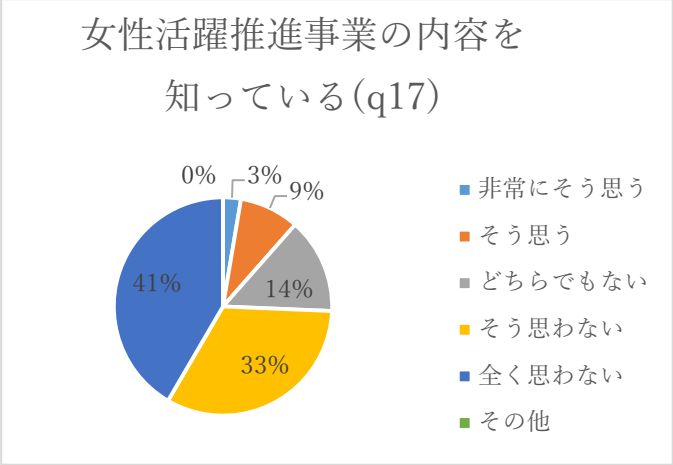


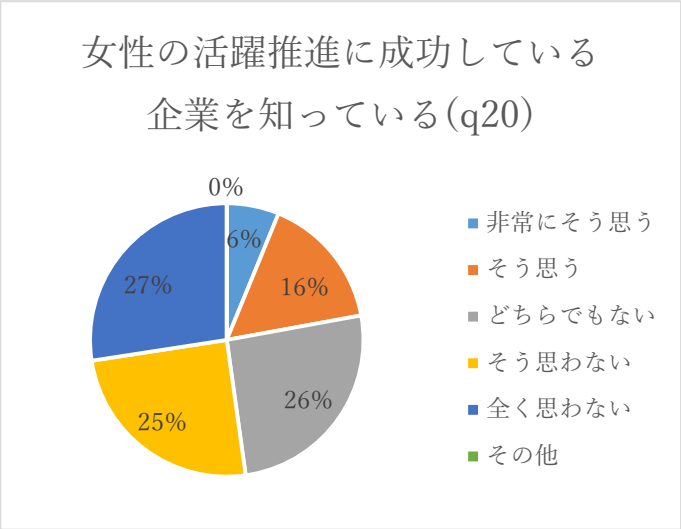
【資料２】<u>各質問項目の回答結果</u>

※以下、各質問項目をその特徴ごとに分けて、記載。

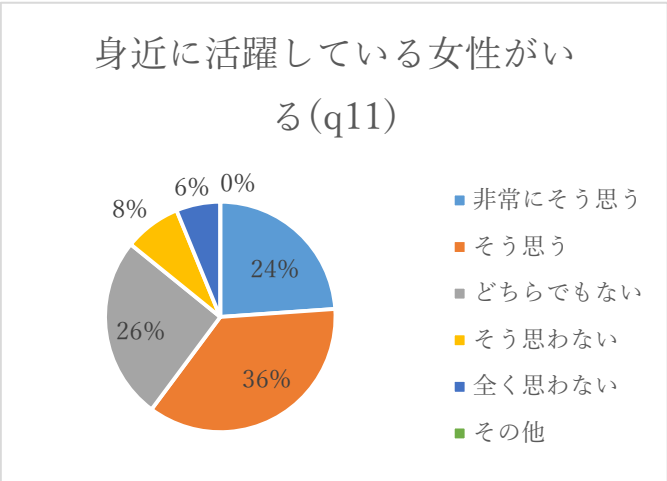
女性活躍事業についての認知度

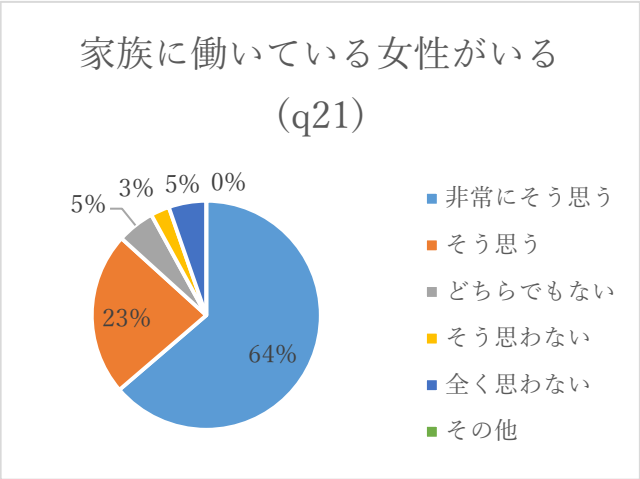




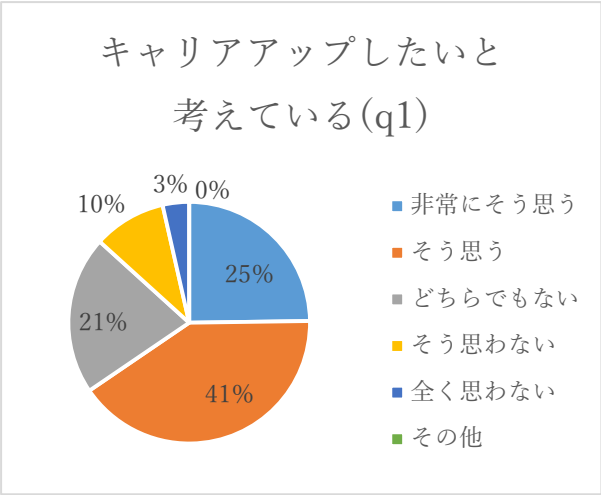


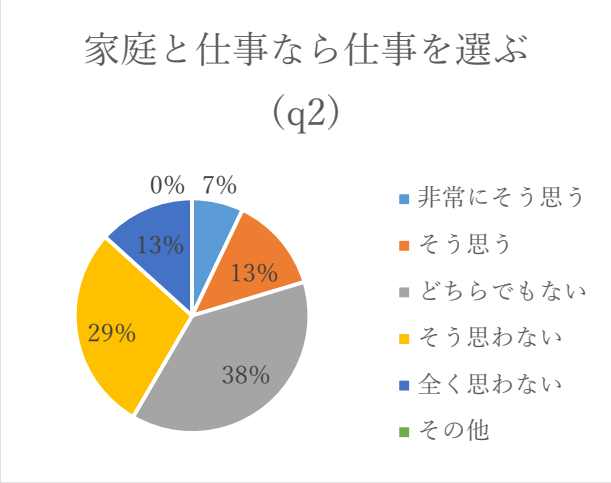
自分の身近な環境

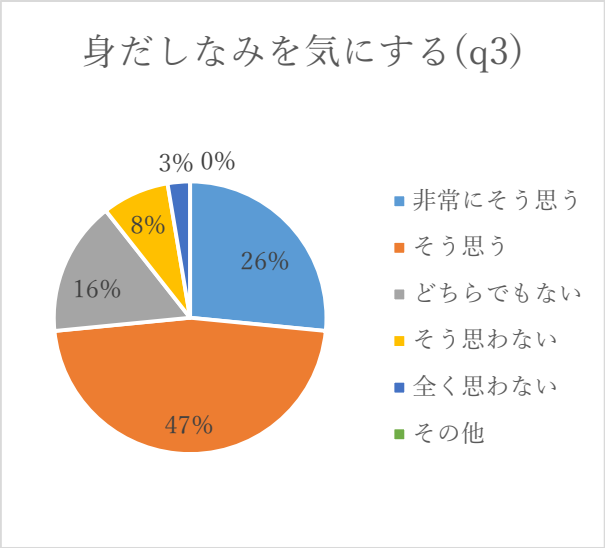


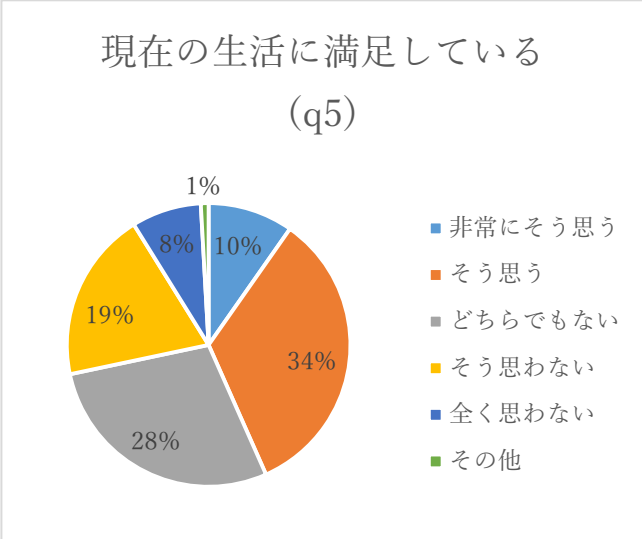


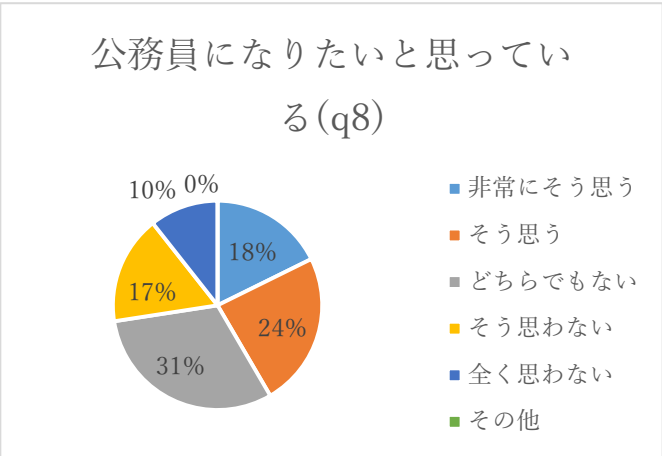
現状

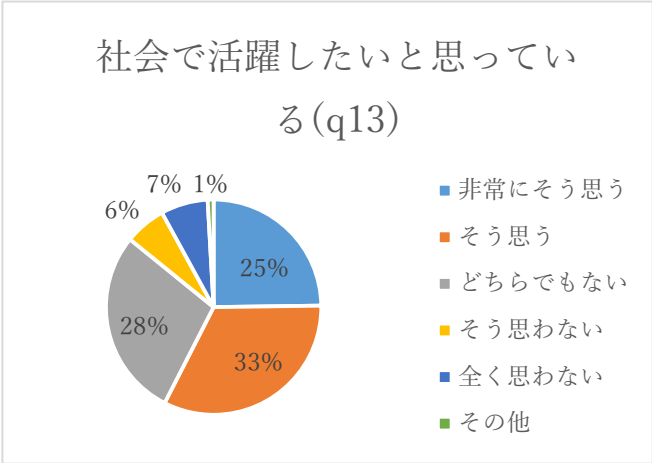

キャリアアップしたいと考えている(q1)
25%
41%
21%
10%
3%
0%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他


家庭と仕事なら仕事を選ぶ(q2)
0%
7%
13%
38%
29%
13%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他

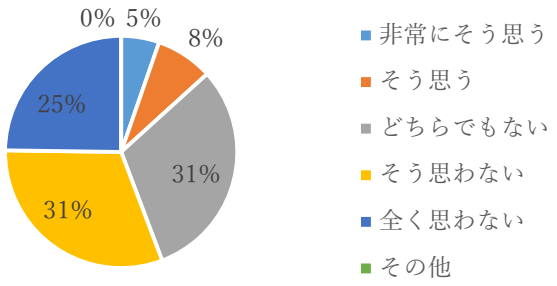

身だしなみを気にする(q3)
26%
47%
16%
8%
3%
0%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他


現在の生活に満足している(q5)
1%
10%
34%
28%
19%
8%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他

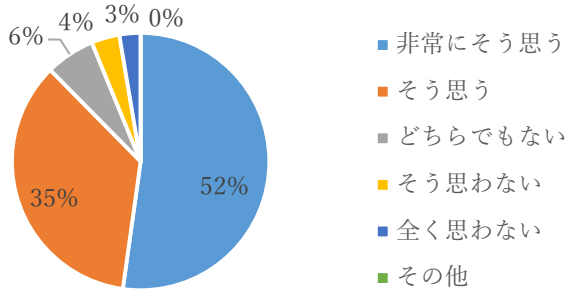

公務員になりたいと思っている(q8)
10%
0%
18%
24%
31%
17%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他


社会で活躍したいと思っている(q13)
7%
1%
6%
25%
33%
28%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他

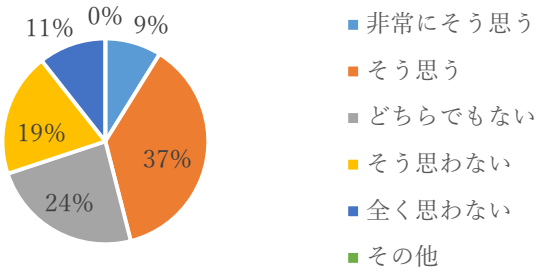
職場は女性もしくは男性だけの環境の方が居心地がいいと思う(q14)



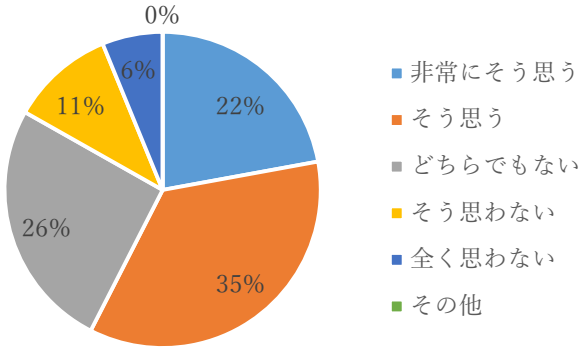
女性が就職するのに苦労する業界があると思う(q15)



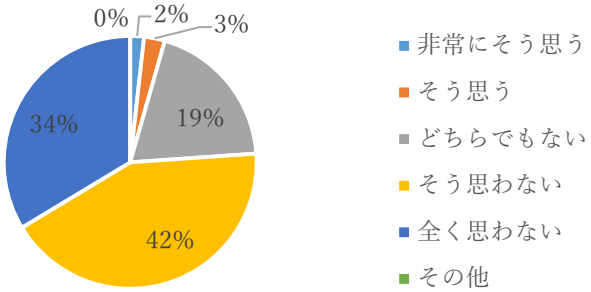
男女問わず、寿退社、出産・育児休暇後の再就職(職場復帰)は難しいと思う(q18)



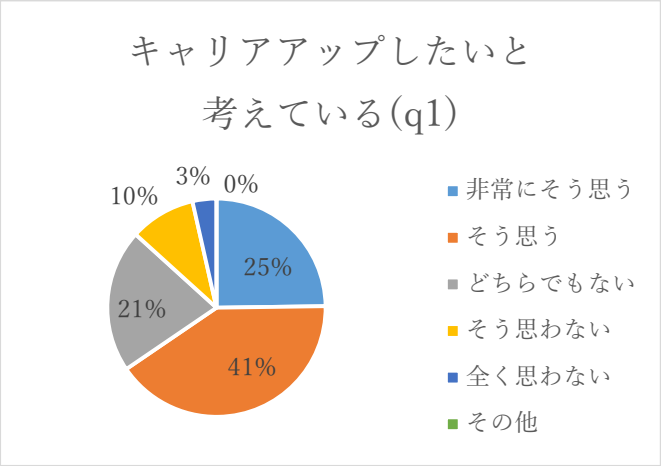
ストレス発散ができている(q22)

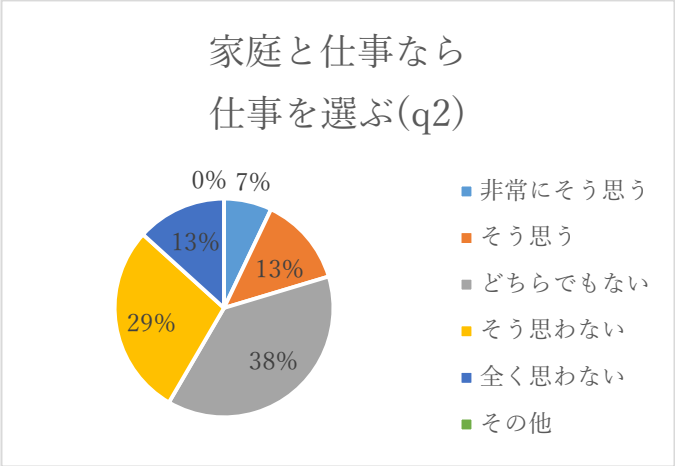


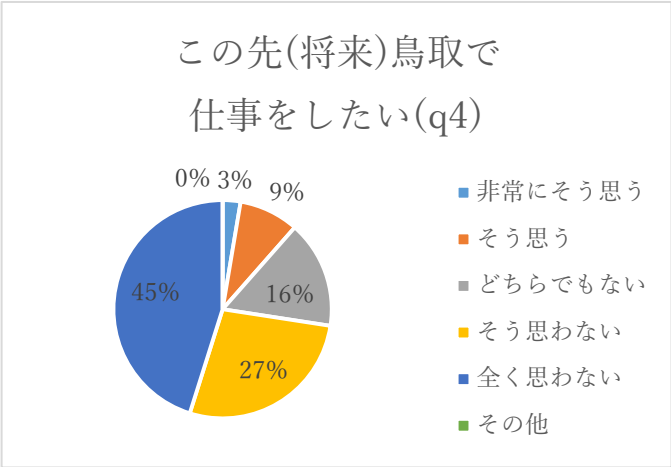
日常の中で幸せだと感じる時間は全くない(q23)

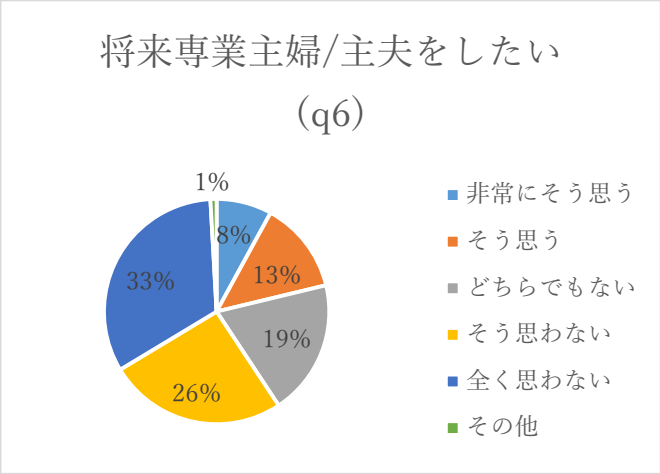


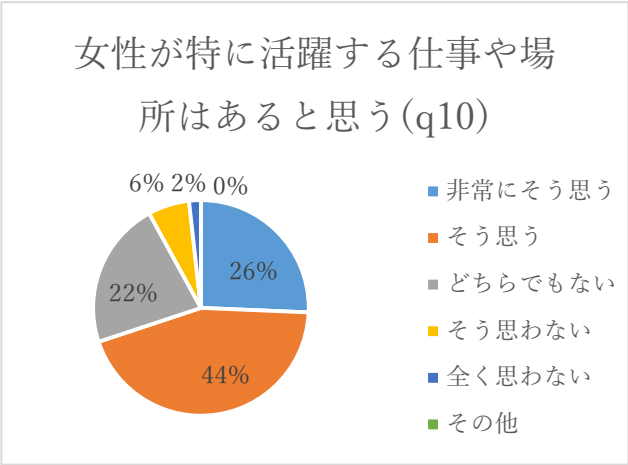
個人の考え

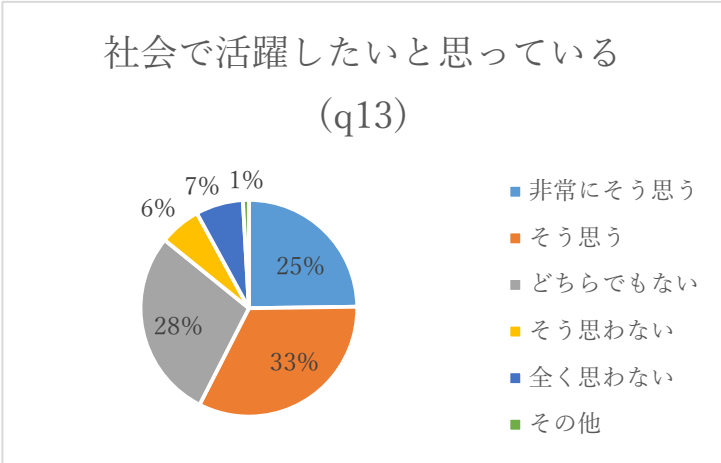

キャリアアップしたいと考えている(q1)
25%
41%
21%
10%
3%
0%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他

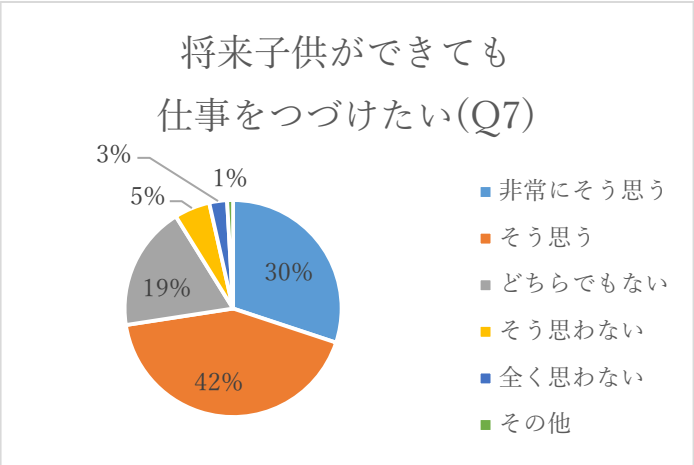

家庭と仕事なら仕事を選ぶ(q2)
0%
7%
13%
38%
29%
13%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他


この先(将来)鳥取で仕事をしたい(q4)
0%
3%
9%
16%
27%
45%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他

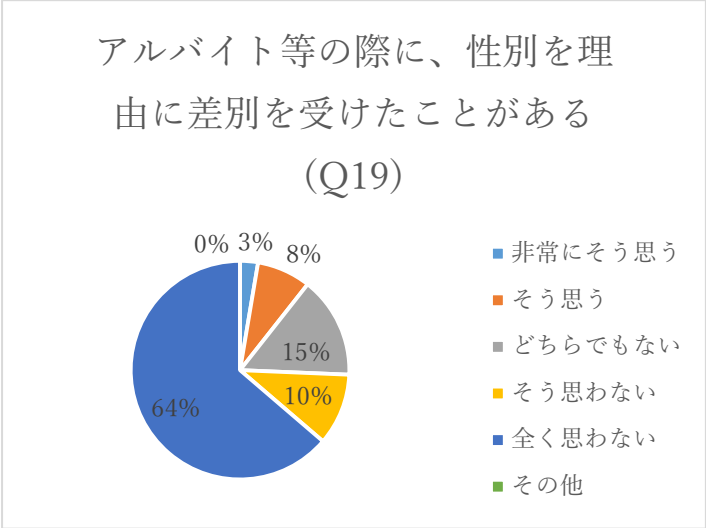

将来専業主婦/主夫をしたい(q6)
1%
8%
13%
19%
26%
33%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他

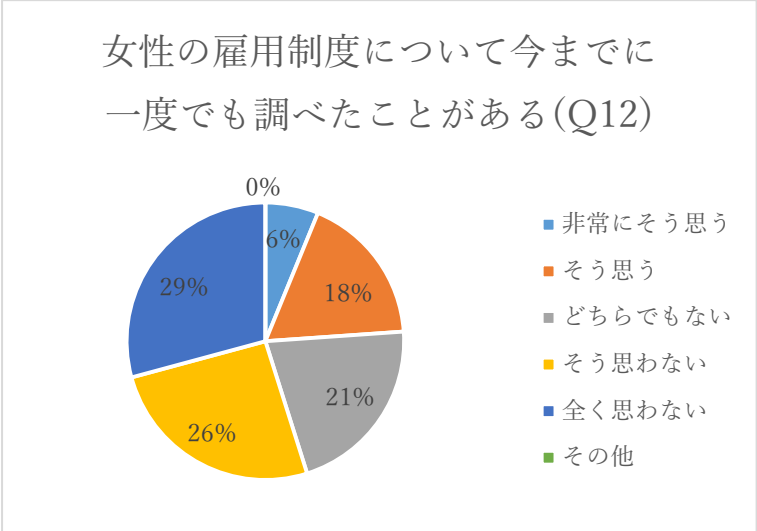

女性が特に活躍する仕事や場所はあると思う(q10)
6%
2%
0%
26%
44%
22%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他

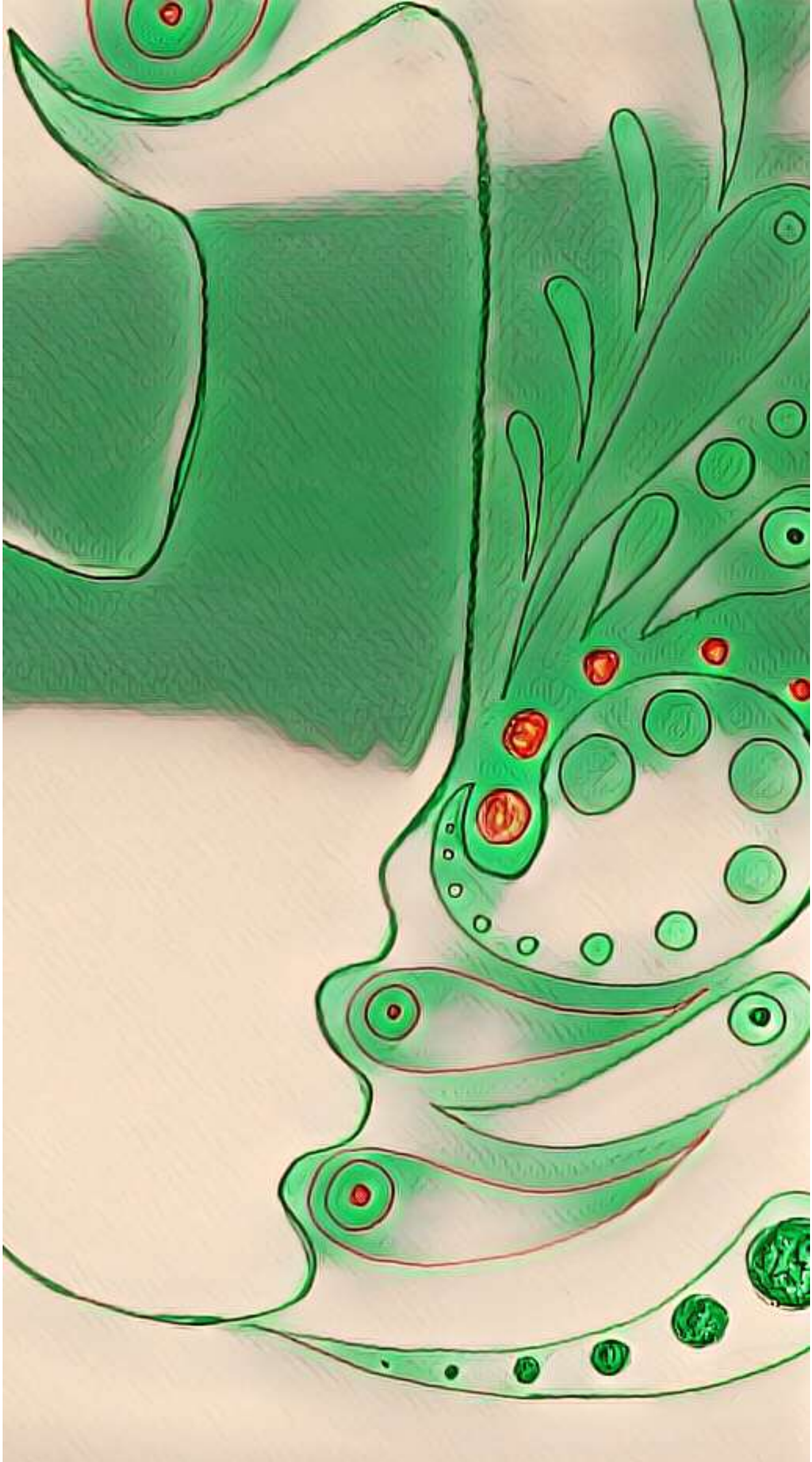

社会で活躍したいと思っている(q13)
6%
7%
1%
25%
33%
28%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他


将来子供ができても
仕事をつづけたい(Q7)
3%
1%
5%
30%
19%
42%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他

個人の経験


アルバイト等の際に、性別を理
由に差別を受けたことがある
(Q19)
0%
3%
8%
15%
10%
64%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他


女性の雇用制度について今までに
一度でも調べたことがある(Q12)
0%
6%
18%
21%
26%
29%
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全く思わない
その他

【資料 3】アンケート用紙　　※あなたにあてはまる数字１つに○をつけてください。

		非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全く思わない
1	キャリアアップをしたいと考えている	5	4	3	2	1
2	家庭と仕事なら仕事を選ぶ	5	4	3	2	1
3	身だしなみを気にする	5	4	3	2	1
4	この先(将来)鳥取で仕事をしたい	5	4	3	2	1
5	現在の生活に満足している	5	4	3	2	1
6	将来専業主婦／主夫をしたい	5	4	3	2	1
7	将来子供ができても仕事をつづけたい	5	4	3	2	1
8	公務員になりたいと思っている	5	4	3	2	1
9	現在の日本では、女性が活躍していると思う	5	4	3	2	1
10	女性が特に活躍する仕事や場所はあると思う	5	4	3	2	1
11	身近に活躍している女性がいる	5	4	3	2	1
12	女性の雇用制度について今までに一度でも調べたことがある	5	4	3	2	1
13	社会で活躍したいと思う	5	4	3	2	1
14	職場は、女性、もしくは男性だけの環境の方が居心地がいいと思う	5	4	3	2	1
15	女性が就職するのに苦労する業界が存在すると思う	5	4	3	2	1
16	女性活躍推進事業があることを知っている	5	4	3	2	1
17	女性活躍推進事業の内容を知っている	5	4	3	2	1
18	男女問わず、寿退社、出産・育児休暇後の再就職(職場復帰)は難しいと思う	5	4	3	2	1
19	アルバイト等の際に、性別を理由に差別を受けたことがある	5	4	3	2	1
20	女性の活躍推進に成功している企業を知っている	5	4	3	2	1
21	あなたの家族には働いている(母・祖母・叔母・姉など)女性がいる	5	4	3	2	1
22	ストレス発散ができている	5	4	3	2	1
23	日常の中で幸せだと感じる時間は全くない	5	4	3	2	1